

月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.
178

さらにグレードアップした『イースX』が
PlayStation 5にも登場！

『イースX -Proud NORDICS-』

剣帝のお悩みをみんなで解決!?
その意外な原因とは？

み～んな集まれ！ ファルコム学園

英雄伝説 空の軌跡

&

啄木鳥しんきのFalcom日和

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を



FALCOM MAGAZINE CONTENTS

2 目次

4 冒険あの名作がグレードアップして
PlayStation 5に登場！
『イースX -Proud NORDICS-』

6 も〜っと集まれ！ ファルコム学園
新久保だいすけ

16 ファルコムニュース

19 英雄伝説 空の軌跡
啄木鳥しんき

55 啄木鳥しんきのFalcom日和

56 英雄伝説 零の軌跡
午後の紅茶にお砂糖を
著：むらさきゆきや イラスト：窪茶

アクションRPG「イース」シリーズ生誕 35 周年記念作品として、2023 年に発売された最新ナンバリングタイトル『イース X -NORDICS-』に、新たにフィールドやダンジョン、イベントに楽曲と追加要素が満載された『イース X -Proud NORDICS-』。2025 年に Nintendo Switch™2 にて発売された本作が、2026 年に PlayStation 5 でも発売されることが決定。PlayStation 5 版ではさらに、4K 解像度 & 120fps 対応となっており、さらに迫力あるアクションバトルを楽しめること間違いなしだ。



アドル・クリスティン
(CV: 梶裕貴)



カージャ・バルタ
(CV: Lynn)

パッケージ版の初回特典には 『イース X -Proud NORDICS- 追加楽曲全集《復刻盤》』を収録！

初回特典として収録される本 CD は、本作で新たに追加された楽曲をすべて収録し、オリジナルデザインの音楽 CD として制作された逸品。CD 版単品としての販売予定はないので、欲しい人は逃さずにチェックしておこう。



新たな要素が満載の 『イース X -Proud NORDICS-』が PlayStation®5 にて発売決定！



■製品情報

- 発売日: 2026年2月19日
 - ジャンル: アクションRPG
 - 対応機種: PlayStation 5
 - プレイ人数: 1人
 - CEROレーティング: C
- 価格: 【パッケージ版】8,580円(税込)
【ダウンロード版】8,580円(税込)

『イース X -Proud NORDICS-』公式サイト
<https://www.falcom.co.jp/ysxpn/>

揺るぎない剣帝



レーヴェの話



★啄木鳥先生は「レーヴェのことがよくわからん」と言ってましたが、それな★



本物と偽物



被害者の男性たち



ロランスをもう一度



金と銀



スチャラカしませんか



頭身



レーヴェの仮説



もう一人の僕たち



マジでくたばる5秒前



切れない絆



聞きたかったこと



増えたら減らそう





日本ファルコム創業40周年を余裕で超えても、尽きることなく怒涛の勢いでニューカマーが押し寄せるファルコム学園! いつまで続くのかこの進撃! そして天才・新久保だいすけに果たして限界はあるのか!? 様々な難問に挑戦し続けるご存知“ファル学”第4巻!

実は、計10冊目の 『ファルコム学園』!



も~っと集まれ!

ファルコム学園④

新久保だいすけ

定価: 本体 909 円+税
ISBN 978-4-8021-3387-6

©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©FIELD-Y

発行: フィールドワイ
発売: メディアパル

フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks

発行: フィールドワイ
発売: メディアパル

フィールドワイ公式HPはこちら→www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→www.field-y.co.jp/falcombooks

全曲新アレンジ・新録音で贈るファルコム45周年記念アルバム 『Falcomアコースティックス3』 2026年3月9日(月)に発売!

日本ファルコム株式会社は、2026年3月9日(月)に創立45周年を迎えることを記念して、同社が手掛ける高解像度ハイレゾ音源によるオリジナル音楽アルバムシリーズ第3弾『Falcomアコースティックス3』を発売。「ソーサリアン」のボーカルナンバー『Josephine』や「イースII」の代表曲『LILIA』、『XANADU』の『LA VALSE POUR XANADU』といった数々の名曲を新規アレンジ。さらに、ボーナストラックとして「奇跡の軌跡VI Falcom jdk BAND LIVE ASIA TOUR 2025」のために制作・新録音された『星の在り処』のJapanese ver.、Chinese ver.を収録しています。



ゲームミュージックファンだけでなく、音楽を楽しむすべての人に聴いていただきたい、という想いを込めて制作した『Falcomアコースティックス3』。まるで耳で自分のためだけに生で演奏しているかのような“リアルな音響空間(Acoustics)”をぜひこの機会に体感してください。

また、各音楽配信サイトでのダウンロード販売のほか、「mora」「music.jp」などハイレゾ配信サイトでのハイレゾ音源販売、「Spotify」「Amazon music」「Apple Music」「YouTube Music」など定額制音楽配信サービスでの楽曲配信も同日より開始されます。

■発売日：E2026年3月9日(月) ■収録曲数：全12曲

■価格：【CD盤】3,080円(税込)、【ダウンロード版】【アルバム】2,444円(税込)／【単曲】255円(税込)、【ハイレゾ音源版】【アルバム】3,055円(税込)／【単曲】356円(税込)

《収録曲》Josephine(ソーサリアン)／幻の大地セルペンティナ(Zwei!!)／(順不同)白き花のマドリガル・メドレー(空の軌跡 the 1st)／Strepitoso Fight(英雄伝説 空の軌跡SC)／空を見上げて(英雄伝説 空の軌跡SC)／I'll remember you(英雄伝説 閃の軌跡II)／Step Ahead(英雄伝説 閃の軌跡III)／CRIMSON SIN(英雄伝説 黎の軌跡II-CRIMSON SIN-)／LILIA(イースII)／LA VALSE POUR XANADU-(XANADU)

【ボーナストラック】星の在り処(Japanese ver.)(英雄伝説 空の軌跡) 星の在り処(Chinese ver.)(英雄伝説 空の軌跡)

■音楽配信サイト

《iTunes® Store》<http://itunes.apple.com/jp/artist/id120174391>

《Amazon Music》<http://j.mp/V5jC6N>

《mora》<http://mora.jp/artist/299183/all>

《music.jp》<http://music-book.jp/music/Artist/141849/Album>

■ハイレゾ版音源配信サイト

《mora/ハイレゾ配信ページ》<http://mora.jp/artist/299183/h#discArea>

《music.jp/ハイレゾ配信ページ》<http://music-book.jp/music/Artist/141849/hiresoalbum>

《qobuz》<https://www.qobuz.com/jp-ja/interpreter/falcom-sound-team-jdk/11819776>

《OTOTOY》https://ototoy.jp/_/default/a/124419

■定額制音楽配信サービス

《Spotify》<https://open.spotify.com/artist/5WFofzgRxpVNkpwg9XRSdg>

《Amazon music》<https://music.amazon.co.jp/artists/B00B4R35JQ/falcom-sound-team-jdk>

《Apple Music》<https://music.apple.com/jp/artist/falcom-sound-team-jdk/120174391>

《YouTube Music》<https://music.youtube.com/channel/UCOOOdHr4emlkr02wjynGF3Q>

《qobuz》<https://play.qobuz.com/artist/11819776>

「ファルコム 音楽CD」情報ページ

<https://www.falcom.co.jp/music>

《ファルコム音楽フリー宣言》<https://www.falcom.co.jp/music-use>

ファルコムショップ

<https://falcom.shop/products/detail/767>

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ!

Nintendo Switchに登場!

EGGコンソール『ザナドゥ MSX』配信開始

Windows向けレトロゲーム配信サービス・プロジェクトEGGのNintendo Switch展開である“EGGコンソール”に『EGGコンソール ザナドゥ MSX』が登場! 国産PCゲームで40万本というセールスは、いまだに破られることがない記録。エポックメイキングという言葉がこれほど似合うタイトルは、他にはないかもしれません。



なお、今回リリースするMSX版は後発ということもあって、装備しているアイテムがアイコン表示されるなどのマイナーチェンジもあります。「MSX版が好き!」というザナドゥファンには一目置ける存在といえるかもしれません。



プレイヤーは冒険者となって全10ステージを探索し、最終的にキングドラゴンを倒すことが目的です。

プレイヤーキャラには職業はなく、戦士と魔法使いの2種類の経験値やレベルがあり、どちらを使って敵を倒すかで、戦士系にも魔法使い系にも成長させることができます。また武器、防具、魔法にも経験値が設定されており、同じものを使い込むことで、より高い効果を発揮することになります。



マップ上にはショップが配置され、モンスターが徘徊していますが、モンスターは有限で狩り尽くすと出現なくなってしまいます。つまり経験値も有限と言うことなので、武器で倒すか、魔法で倒すかは、よく考えて戦いたいところ。キャラクターやアイテムの成長はあなたのマネジメント力が必要になるでしょう。果たしてあなたは、巨大なこ「クラーケン」、複数の手を持つ巨人「カーティケア」、銀色に輝く「シルバードラゴン」といった巨大なボスキャラを倒し、キングドラゴンを倒すことができるでしょうか。

戦闘はシンボルエンカウント方式を採用

モンスターと接触することで戦闘シーンに切り替わり、武器による攻撃(体当たり)や魔法を駆使してモンスターと戦います。敵を倒せば宝箱が出現し、アイテムやお金などが獲得できます。



■タイトル：EGGコンソール ザナドゥ MSX

■メーカー：D4エンタープライズ ■対応言語：日本語、英語

■価格：880円(税込) ■配信日：2025年11月20日(木)

My Nintendo Store

<https://store.jp.nintendo.com/item/software/D70010000093166>

EGGコンソールタイトル一覧

<https://www.amusement-center.com/project/egg/console/>

《Falcom jdk BAND LIVE 2026》前売りチケット発売中! フリー入場物販も決定!



2026年2月7日(土)、東京・赤羽ReNY alphaでフルライブ開催決定。主題歌『星の在り処』『空の軌跡 the 1st』バージョンを世界初生演奏します。

『Falcom アコースティックス3』 先行販売

2026年3月9日発売予定の全曲新アレンジ・新録音で贈るファルコム45周年記念アルバム『Falcom アコースティックス3』をいち早くライブ開場で先行販売します

■日時

2026年2月7日(土) 開場16:30/開演17:30
※開場前のフリー入場物販 14:00~16:00

■会場

赤羽ReNY alpha (JR赤羽駅 東口より徒歩1分)
https://ruido.org/akabane_reny/access.html

■出演者

《Falcom jdk BAND》
佐坂めぐみ(ボーカル)/PBM(ギター)/ADD(サックス)/谷崎航大(ヴァイオリン)/gakia2(キーボード)/NAOKIX(ベース)/山崎善紀(ドラム)

■出演者

ライブ開場前の2時間はフリー入場物販。ライブチケットをお持ちでない方もご利用いただけます。
[14:00~16:00]
物販(フリー入場)※チケットなしで入場OK
[16:30~]
※開場後~終演後も物販を行います

■チケット情報

[発売日]

2025年11月14日(土) 12:00

[料金]

¥6,000(税込)
※別途1ドリンク¥700(税込) 必要

[座席]

スタンディング
[チケット購入]
e+ (イープラス) ※入場はチケット記載の整理番号順となります(整理番号は購入先着順)

<https://eplus.jp/sf/detail/4425630001-P0030001>

ライブ特設サイト

<https://www.falcom.co.jp/jdk/2026/>

Falcom Shop POP UP 《ファルコムしょう2025》 11月29日(土) より仙台会場にて開催!

ファルコムのFalcomShopが全国5会場を巡回。みっしバルーンの撮影スポット、試遊台、物販など♪ぜひお近くの会場へお越しください。
※会場により展示内容が異なる場合がございます。ご了承ください。

■会期

ジーストア小倉

2025年11月1日(土)~11月9日(日)

ジーストア名古屋

2025年11月15日(土)~11月24日(月祝)

ジーストア仙台

2025年11月29日(土)~12月7日(日)

グランエンタス (秋葉原オノデン1F)

2025年12月27日(土)~2026年1月12日(月祝)



■入場料：無料

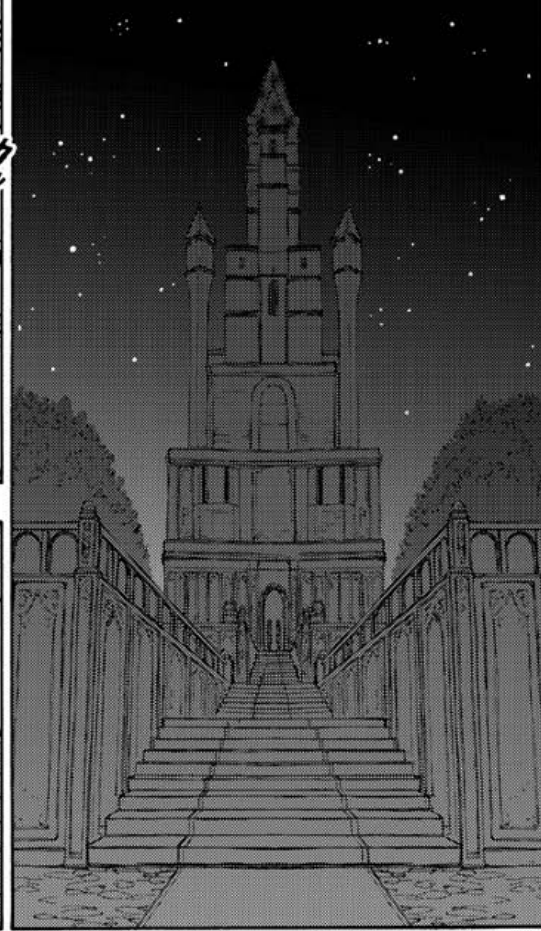
特設サイト

<https://www.geestore.com/event/gallery/falcomshop/>

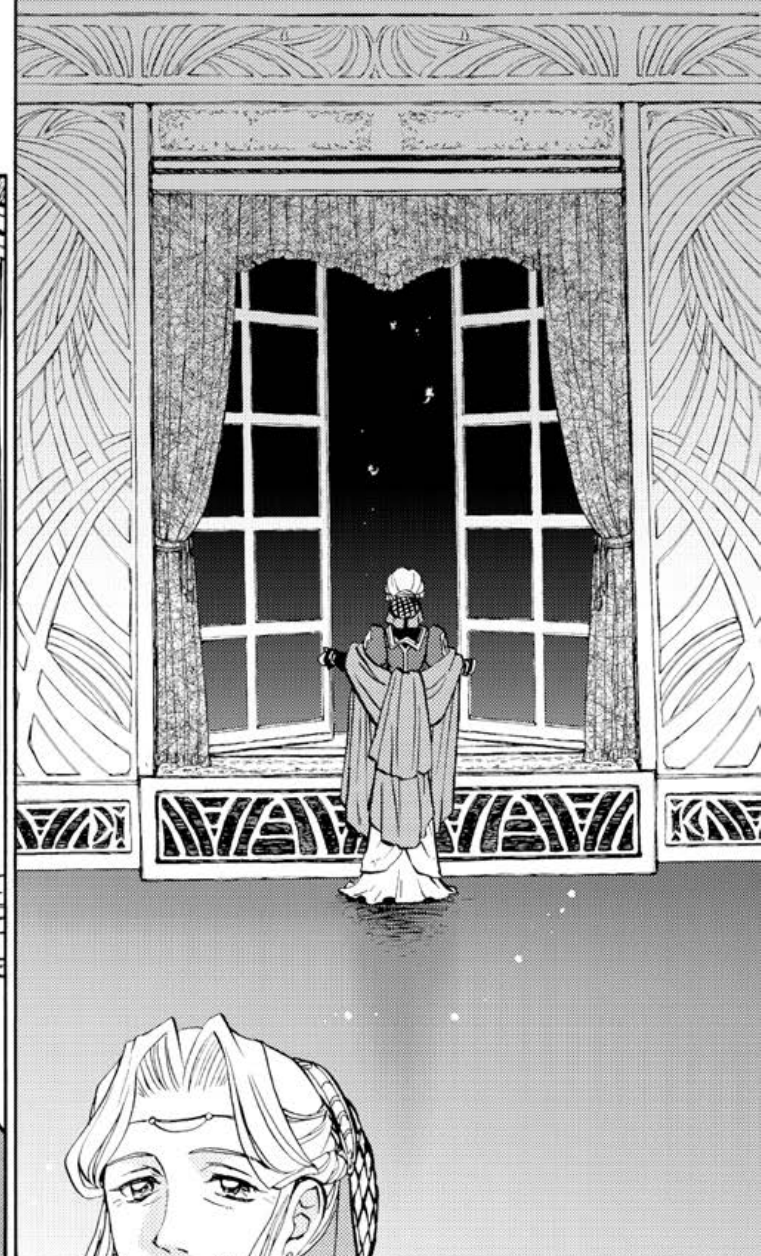
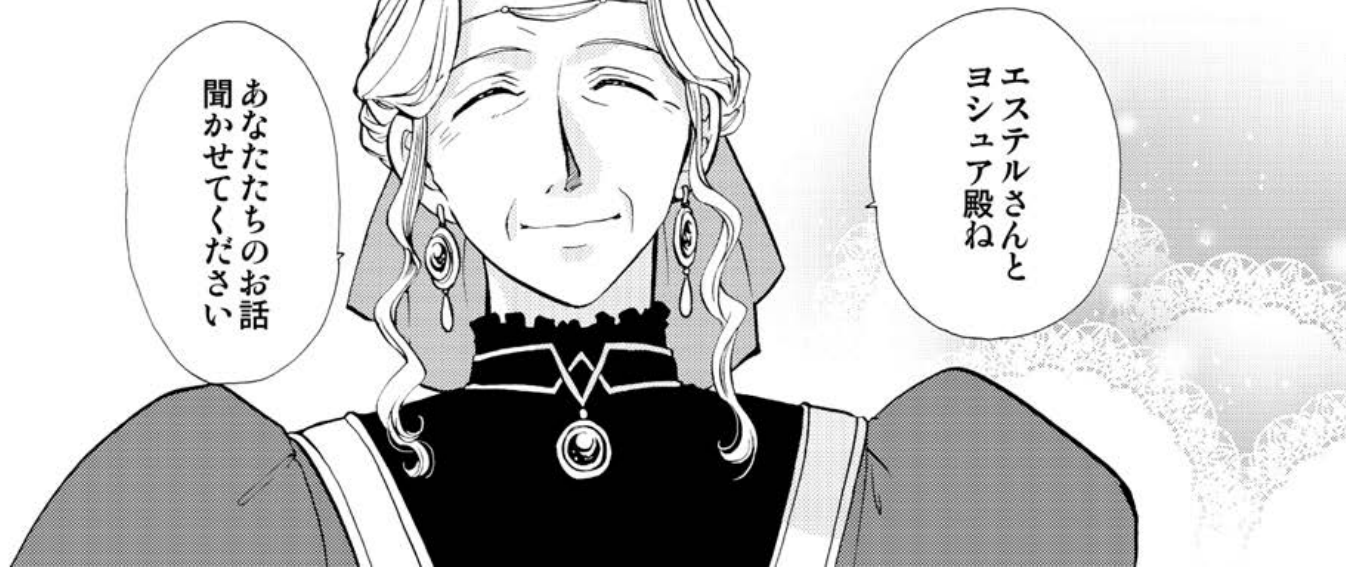


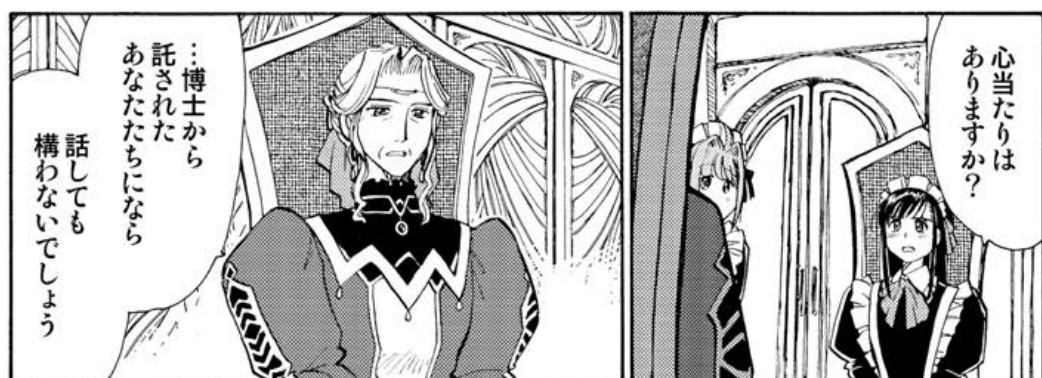
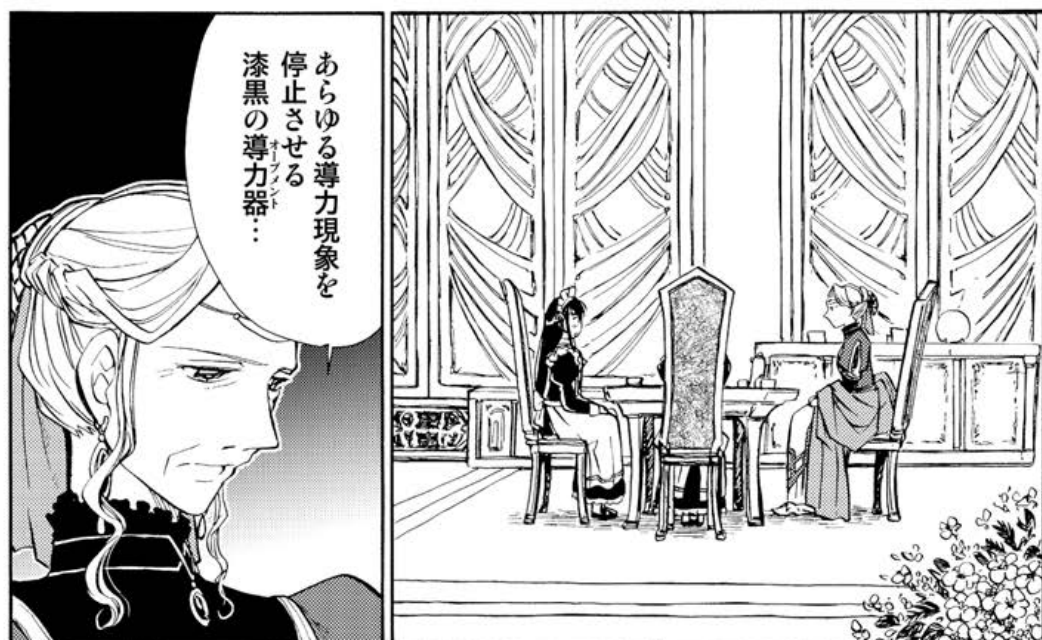


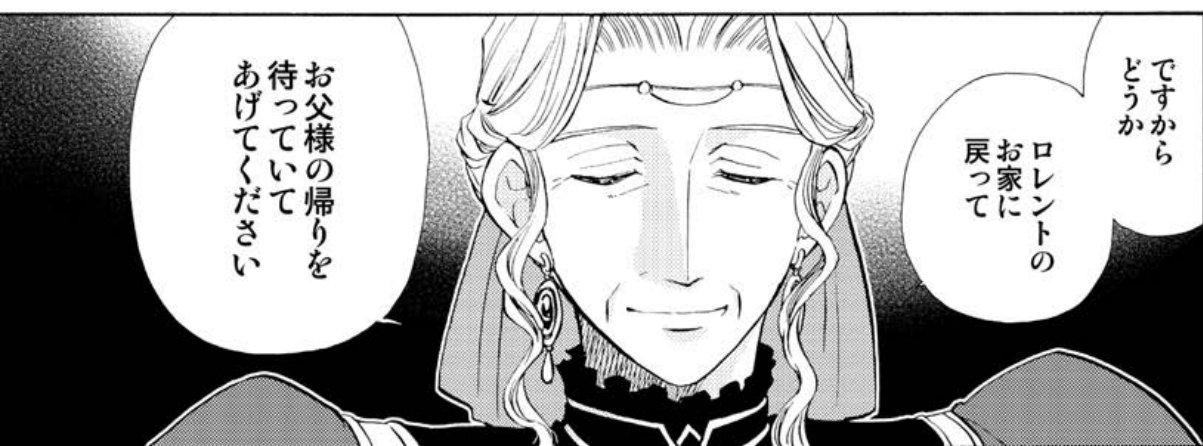
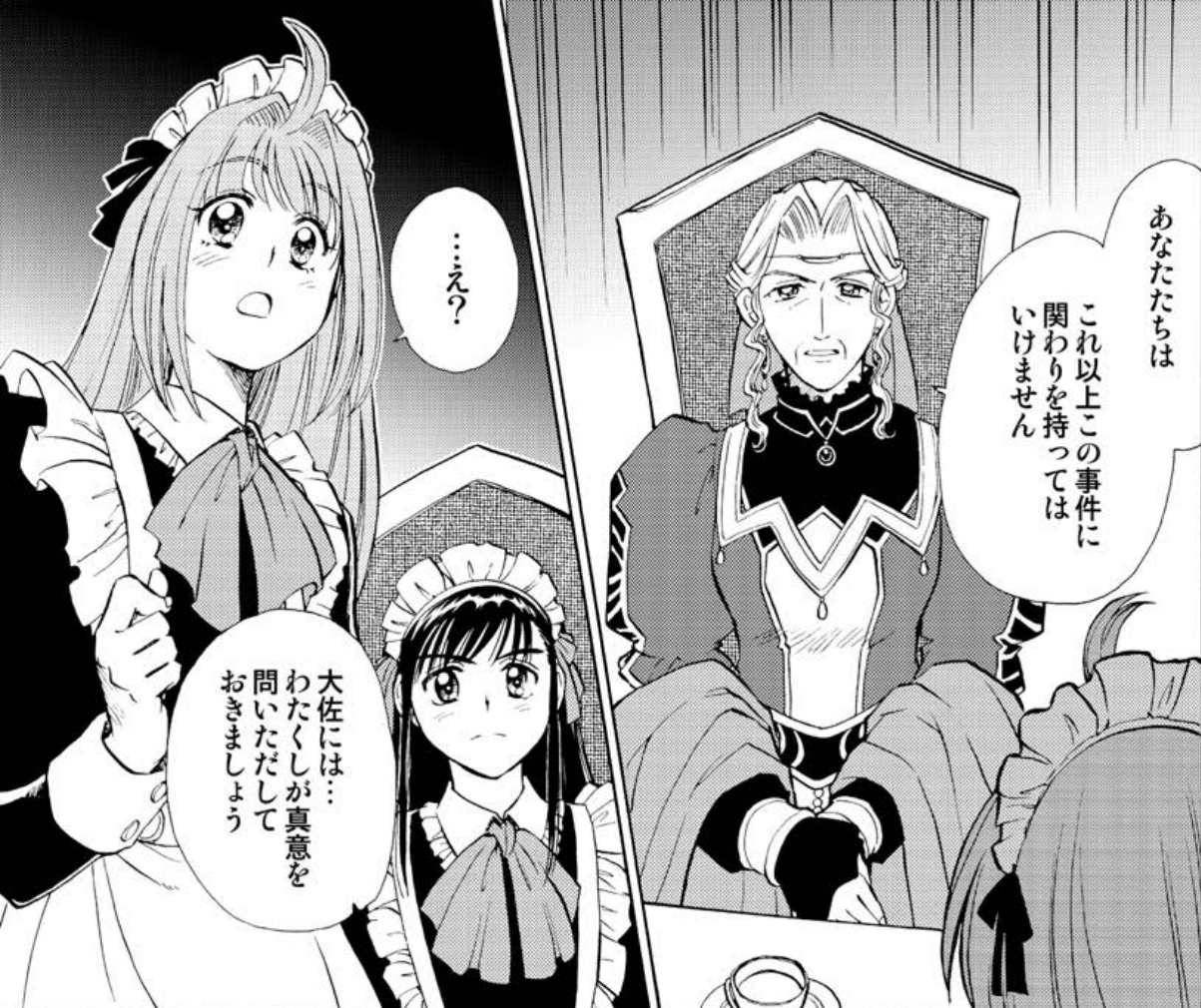














もちろん
よく存じて
いますよ

カシウス殿は
亡くなった息子の
友人でしたし…



王国を救って
くださったね

英雄
ですからね



え…
英…雄…?

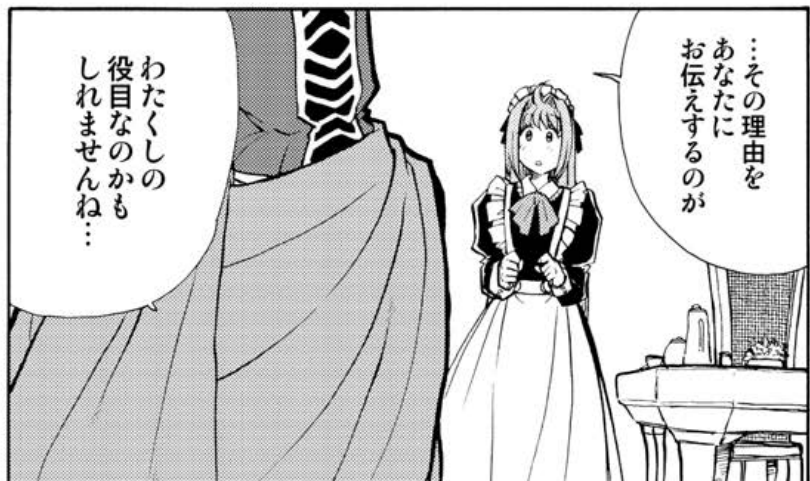
そ…そりや…
昔は軍にいて
カシウス大佐…なんて
呼ばれてたみたい
ですけど…



そ…そこまで
持ち上げて
いただかなく
てもいいと
いうか…

だいいち
そんなに
すんこい人なら

なんで
田舎の遊撃士なんか
やってんの?
って話だし…



…その理由を
あなたに
お伝えするのが

わたくしの
役目なのかも
しれませんね…



10年前…

エレボニア帝国の
南部で起こった
…ある痛ましい
事件がきっかけで…

後に「百日戦役」と
呼ばれる戦争が
始まりました

圧倒的大兵力を
もった帝国軍に
王国全土は
またたく間に
占領され

残る王都が陥るのも
もはや時間の問題と
思われました



しかし…その戦局を
当時のカシウス・
ブライト大佐が
一氣にひっくり返して
しまったのです

モルガン將軍の
右腕であり

リシヤール大佐の
上官でもあった
彼が…



あなたたちの
お父様が
この戦争を
終わらせて
くれたのですよ



ですが…

この戦いで
カシウス殿は
大切な人を…

レナ・
ブライトさんを
失いました…



自分の立てた反攻作戦が
結果的に
奥様を死なせてしまった…

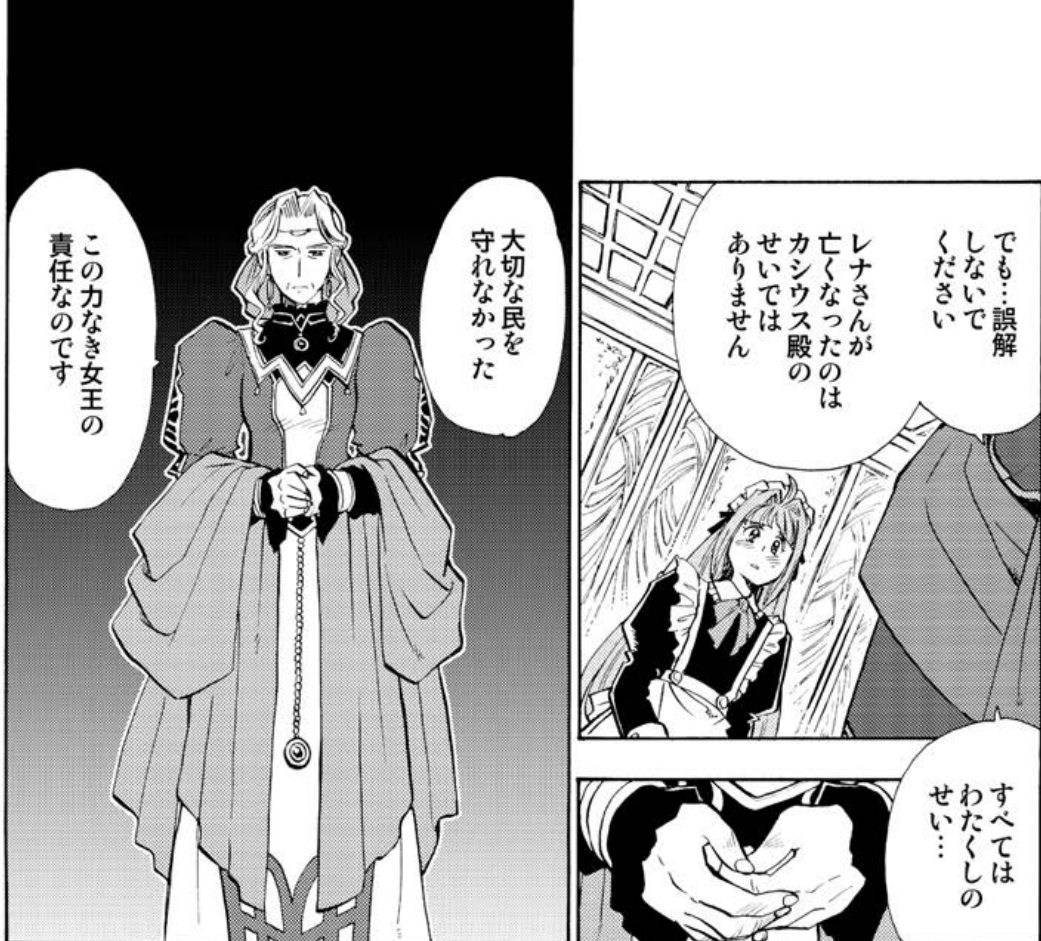
その自責の念から
カシウス殿は
軍を辞めて

遊撃士の道に
入られたのです

…残された
あなたの側に
いるために

今度こそ
自分の手で
愛する人々を
守れるように…

父さん…



でも…誤解
しないで
ください

レナさんが
亡くなったのは
カシウス殿の
せいでは
ありません

すべては
わたくしの
せい…

大切な民を
守れなかった

この力なき女王の
責任なのです



女王様

ごめんなさい…
エステルさん…

でも…
だからこそ

これ以上
あなたたちには
危険な事を
してほしく
ないのです

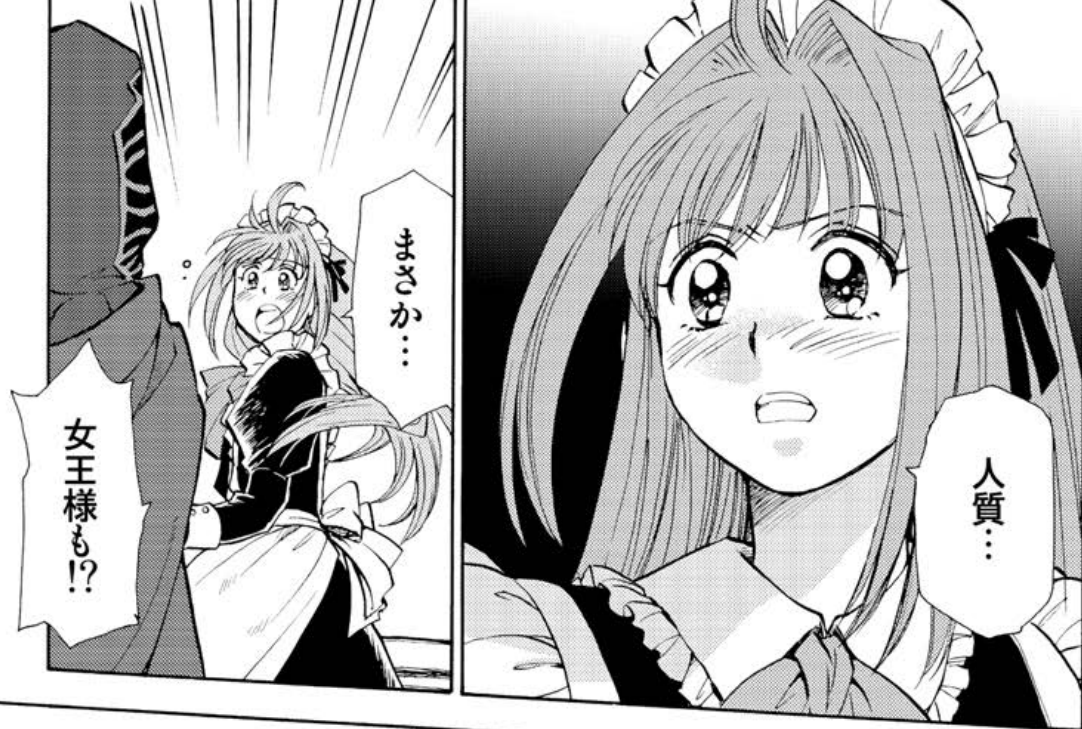
もし…あなたに
万が一のことが
あったら…

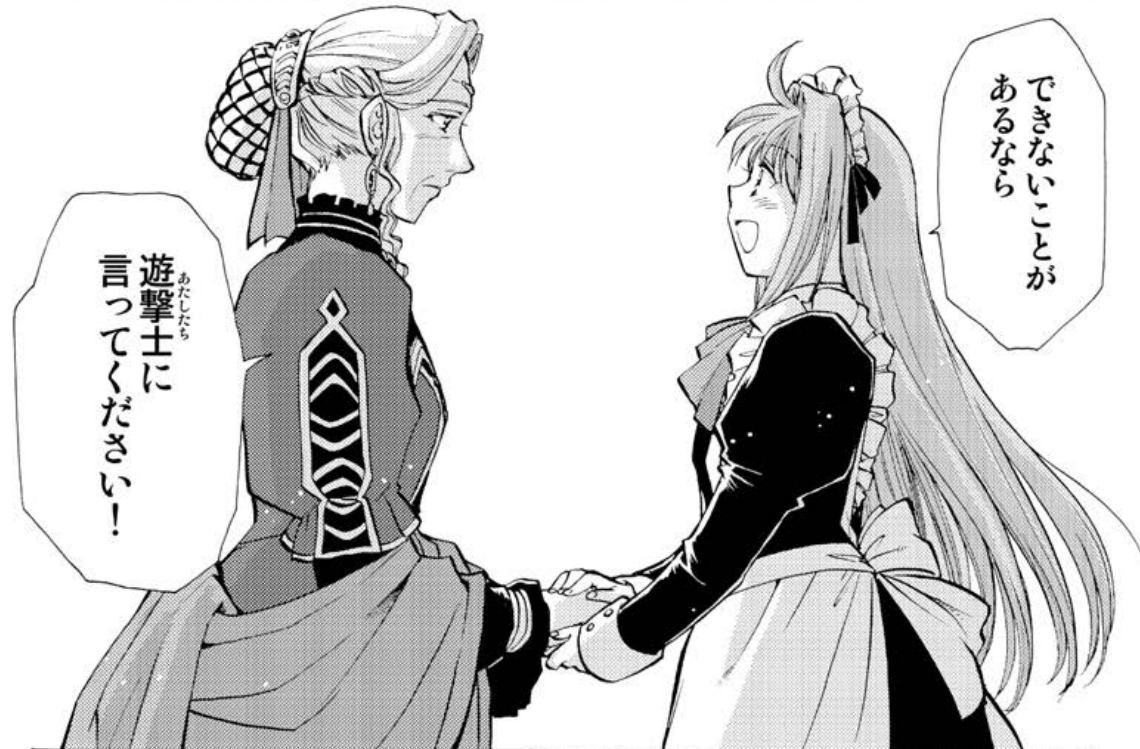


また

大切な家族を
失うことに
なって
しまったら…





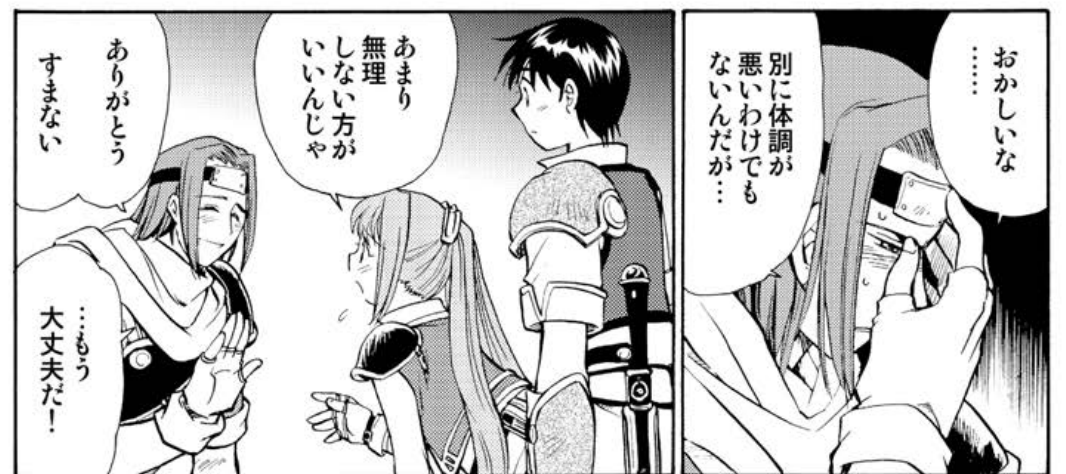












背負っているものが大きいほど人は自由に動けなくなるのせな、と
アリシア様を見ているとほんとどう思います。しんきいな...

漫画で、エステルたちはXイリスの伯爵のま
ま様との謁見をさせていただきましたが、あれは、
敵だしの王宮で変装を解いてる一情報部
に見つたら大変なことになるのを防ぐための
苦肉の策であって、邪な意図はありません。
け、じてありません。

啄木鳥しんきの
Falcom日和



Xイリス
かわいい(=)



こっちは...
来てるよね
!?

ナイアル
先輩はー!!

ドロシー!?
どうしたの!?

エステル
ちやあん
っ



ナイアル?

この間から
会ってない
けど...

まどうか

彼に何か
あったんですか!?

うあーん
じーじー

ナイアル先輩
死んじゃううう
っ

次回に続く

第4話

『リーシャと銀のハイキング』

特務支援課メンバーが過ごす

クロスベル自治州のゆる～い(?)日常!



©YUKIYA MURASAKI, KUBOCHA

第6回

エレボニア帝国とカルバード共和国という大国に挟まれながらも、自治州として独立していたクロスベルを舞台とした『零の軌跡』、『碧の軌跡』シリーズ。続編となる『閃の軌跡』、『創の軌跡』においても激動の中にあり、様々な壁が立ち塞がっていたが、怯むことなく立ち向かっていったのがロイド・バンニングス率いる特務支援課メンバーだ。そんな特務支援課メンバーが、もしかしたら過ごしていたかもしれない日常を描く、魅力たっぷりの一冊をご堪能あれ!

製品情報

好評発売中

著 : むらさきゆきや
イラスト : 窪茶
定価 : 1,210円(税込)

英雄伝説 零の軌跡
午後の紅茶にお砂糖を

おだやかな日差しが、アルカンシエル劇場の二大スターの看板を照らしていた。
一枚はトップスターのイリア・プラティエ。豪華な金髪の美女である。
もう一枚は、大型新人アーティストのリーシャ・マオ。神秘的な美貌の少女だ。
彼女たちを中心とした舞台で、アルカンシエル劇場の名は周辺諸国にも知れ渡っていた。
その控え室でのこと――

午前の練習が終わると、リーシャはすぐに練習用の衣装から私服へと着替えた。

「思ったより長引いちゃった……急がないと……」

そこへ、ぬうっと背後から手が伸びてくる。

「ハッ!？」

むんずつ! とリーシャの胸が、その両手に掴まれた。

「ひゃっ!？」

「リィシャ?」

胸をつかんできたのは、金髪の女性だ。

「あ……イ、イリアさん……!？」

「そんなにあわてて、どこへ行くのかしら?」

まだ彼女は《太陽の姫》の衣装を着たままで、まるで本物のお姫様みたい。

(まあ、本物のお姫様なら、女の子の胸をつかんだりしないだろうけど……)



とリーシャは内心で苦笑した。

「あのー、イリアさん……ちょっと、今日は、人と会う約束がありまして……」

「なんですって!? まさか、彼氏が!?」

「そ、そんなわけないじゃないですか! だいたい、稽古ばかりで、作る暇なんか!」

「うん、知ってた……まあ、この胸に誘われて言い寄ってくる男は星の数でしょうけれど」
「もにゅん、もにゅん、と白くて細い指に、リーシャの胸がもみしだかれる。」

「はう!? あ……そんな……イリアさん、だめです。そんなにしたら……」

「リーシャって、それほど背は高くないし、体だって細いのに、胸ばかり、こんなにも!」
「ハアハア、なんか興奮してきちゃったかも」

「や、困ります……ああ……おかあさん」

控え室の入り口あたりから、深々としたため息が聞こえた。

「はあ……」。イリアさん、リーシャ姉になにやってんだよ?」

呆れ声をあげたのは、シュリだった。

いろいろあってイリアが弟子として迎え、アルカンシエル劇団の新人アーティストとして練習を積ませている十三歳の少女だ。

「テヘッ、とイリアが舌を出した。」

「あまりに、もみ心地がいいものだから、つい♪」

ようやく不埒な両手から解放され、リーシャはへたりこんでしまう。

シュリが肩をすくめた。

「リーシャ姉、なんか急いでるんだろ? 早く行ったほうがいいんじゃないか?」

「う、うん……ありがとう、シュリちゃん」

「シュリ、本当にすごいのか!? あんたも、もんでみる?」

「いや、遠慮しとく……」

「ううう……イリアさん、午後の練習には戻りますから……失礼します!」

リーシャは、他のスタッフにも挨拶しつつ、逃げるように通用口から劇場の外へ出た。

「はあ、イリアさんたら……本気で急がないと……」

物陰に隠れる。

次の瞬間、黒い影が現れた。建物の壁を蹴って、屋根へと飛ぶ。

顔を仮面で隠し、黒衣をまとった者が、人知れず東へと向かうのだった。



その部屋には、ふたりの男がおり、地下水のように冷たく洞窟のように暗い禍々しい気

配と緊張感が満ちていた。

一方の男――

部屋の主は、鋭利な刃物のような雰囲気青年であり、名をツァオ・リーといった。表向きは黒月貿易会社の若き支社長だが、正体は犯罪組織《黒月》^{ヘイユエ}の幹部である。

「フフ……さすがは銀殿だ。まさか、これほどの成果をあげてくださるとは……」

《黒の競売会》^{シユヴァルツオークション}の失敗により、ルバーチエ商会は大幅に勢力を減じました。この街の裏社会、^{クロスベル}予定より早く牛耳ることができそうですよ」

銀と呼ばれた、もう一方の男は――

顔を仮面で隠し、黒いローブをまとっている。

実は、理由あつて声まで変え、男装をしている、リーシャであつた。

アルカンシエル劇団の新人リーシャ・マオと、犯罪組織の幹部が厚く遇する黒衣の男

《銀》――その両方の立場が彼女だつた。

感情を隠した平坦な口調で返す。変装のために歪んだ声だつた。

「私が受けたのは、オークションの出品物を確認する依頼だけだ……」

「フフ、そうですね……騒動を起こしたのは警察の特務支援課ということになっているとか。それこそ素晴らしい。自分たちが手を汚すことなく、競争相手を蹴落とすことができますから」

「……………」

リーシャは、当時のことを思い出す。

あの夜――

《銀》として依頼を受け、出品物を調べるために会場へと乗りこんでいた。

ところが、保管部屋に押し入った直後、ロイドたち特務支援課が現れたのだ。

「なっ……!? あんたは……!!!」

「……妙な気配がするかと思えば、お前たちも入りこんでいたか」

まっすぐな目をした青年と対峙して、リーシャは戦うことなどできなかった。

ロイドたちは、先日、イリアと劇団のために尽力してくれた。リーシャにとっての恩人であり、友人だから。

しかし、別のことも考える。

（でも、ここで簡単に協力するのは不自然よね？ 正体がバレたら困るし……）

熟考の末、こんな言葉を放った。

「フフ、お前たちを始末するのは簡単だが……この場を任せても面白いことになりそうだ」
「なに……!?!」

「奥の部屋に競売会後半の出品物がある……《黒月》^{ヘイユエ}に流れた情報によると、面白い爆弾」

があるらしいぞ？ その目で確かめてみるといい」

そう告げて、屋敷を後にした。

リーシャは物思いから意識を戻す。

「フン……」

今にして思えば、なぜロイドたちに任せようと思ったのか？ なぜ出品物を確かめずに

屋敷を離れたのか？

自分のことながら腑に落ちない。

（まるで、それらが運命であったかのよう……運命？ 私らしくもない……）

リーシャは思考を振り払った。

ともあれ、結果だけ見れば、黒月^{ヘイユエ}にとっては願ってもない展開になっている。

いつも本心を隠している雇い主^{ツァオ}が、それとわかるほど上機嫌になるほど。

「フフ、すでにルバーチエ商会のルートを幾つか押さえることができました。今、あちらは目立った行動が取れませんからね。一方的すぎて少々物足りないほどですよ……さすがは、伝説の凶手^{きょうしゅ}、銀殿^{イン}です」

「私は依頼があったから動いた……そして、利用できるものはすべて利用する……それだけのこと」

口ではそう言いながら、リーシャは内心で、申し訳なくて仕方ないのだが。

（はあ……ロイドさんたちを利用する気なんてなかったのにな。マフィアから報復がないといいけど……あのとき、私が出品物を任せなければ……）

ツァオが黒い笑みを浮かべる。

「フフ、本当に恐ろしい方だ。今後とも我々の、よき協力者であってほしいものです」

「……時間があれば、依頼は引き受けよう。今日は、ここまでだ」

「また、時間^{ツメ}ですか？」

「フ……」

（もう、午後の練習が始まっちゃう）

そういえば——とツァオが口を開いた。

「銀殿^{イン}には興味のないことかもしれませんが、特務支援課とルバーチエ商会の間で、進展があったようです」

「……………」

無関心を装って黙りこんだが、内心では気になって仕方なかった。

「ルバーチエ側から警察に、手打ちを提案したようですね。支援課に報復や訴訟をしない代わりに、《黒の競売会》^{シュヴァルトオークション}で彼らが見つけたものは、自分たちと関係がないことにしてくれ、と」

「……警察側は受けたのか？」

「非公式ながら。法廷で捜査の合法性と、ルバーチェの違法行為の両方を立証するのは難しい、と判断したのでしょう」

「フ……この街の警察は腑抜けばかりだな」

（よかった、ロイドさんたちは安全になったのね！）

リーシャは内心で安堵した。

ツアオが机のうえの報告書をなでる。

「おかげで、私の仕事は順調ですよ。これ以上ないほどに」

「……時間だ」

銀は壁に向かって歩く。ぶつかる直前、自らの姿を歪ませて、その部屋から音もなく姿を消した。

ツアオは薄笑いを浮かべていた。



午後の練習――

「リーシャ、もっと抑揚をつけて！」

「はい！」

イリアの声が響いた。

劇団のスタッフたちには、充分に完成しているように見えていても、彼女の目には、さらなる高みが映っている。

「もっと早く！ そう！」

舞台の左右からジャンプしたリーシャとイリアが、中央で交差する。

見守っているスタッフたちから、おお……と感嘆がもれた。

練習用の衣装で、セットもない舞台だが、そこにイリアの描いている完成形を幻視したのかもしれない。

「いい調子よ、リーシャ！」

「は、はい！」

踊るイリアの顔に笑みが浮かんでいた。

リーシャも笑みをこぼす。

充実している。

生きていると実感する。

イリアには、いくら感謝しても足りない、そうリーシャは感じていた。

リーシャに才能があると見込んで、劇団アルカンシエルに誘ってくれたのは、他ならぬ

トップスターのイリアだった。

決められた暗闇の道を歩くことしか知らなかった自分に、光を教えてくれた女性。太陽のように。

音楽が終わる。

同時に全員が動きを止めた。

ふう、と誰ともなく息を吐く。

一曲ぶんの練習が終わり、小休止となった。

イリアがやってくる。

「リーシャ、最近、なにか気がかりがある様子だったけど、もう心配はなくなったようね？」

「えっ!? ……気づいてたんですか……イリアさん」

「フツフツ、一緒に演じていれば、当然よ。創立記念祭の後からよね。最終日の打ち上げから消えたことと関係あるのかしら？」

「す、すみません……」

「まあ、それで気の抜けた演技をしてたら、厳しく言わせてもらったけど、完璧だったからね」

「え？ そうなんですか？ じゃあ、どうして気づいて？」

「私は完璧よりも上を目指してるから」

「あ……」

舞台のことを口にするとき、イリアは真剣な顔をする。そして、舞台の将来を語るときは幸せそうに笑うのだ。

「完璧な演劇をすれば拍手はもらえるわ。でも、それだけじゃ足りない。お客さんが感動するのは、完璧を超えたときなのよ」

「はい……」

「今のリーシャなら、完璧の上を目指せると思う。もちろん、私も立ち止まってるつもりはないけどね」

リーシャは心地よい緊張と高揚に包まれる。

自然と笑みがこぼれていた。

「私、がんばります」

「よし！」

ぱんぱん、とイリアが手を叩く。

「さあ、休憩は終わりよ！ 次の曲をかけて！」

イリアとリーシャのテンションは上がりっぱなしで、周りのベテランたちも集中していたが、端で話を聞いていたメンバーのなかには、必要以上にプレッシャーを感じてしまった者もいた。

シュリが緊張しすぎて目を回してしまう。

「い、いくぞ……うわっ!? とっ、とととと……ととと……」

セットも置いていない舞台でつまずき、ととと、と中央までたたらを踏んだところ、ずべりと倒れた。

あわてて、リーシャは駆け寄る。

「シュリちゃん、大丈夫!？」

「ご、ごめん……イリアさん、リーシャ姉……オレ……」

泣きそうなシュリの頭を、イリアの手がくしゃくしゃとなる。

「ごめん、ごめん! ちょっと練習がハードだったわね。考えてみれば、最近、休みもなかったし。疲れからミスが出て当然だわ」

「イリアさん、オレ、まだ……!!」

「体調管理もプロの仕事! と言いたいところだけど、あんたの歳なら、教えている私の仕事よね」

「大丈夫だよ! まだ練習できる!」

「いいから言うこと聞きなさい。今日は、お休みにするわ。みんなも、急で悪いけど、一息入れましょう」

団員たちから「そいつは助かるな」とか「ようやく休みか」と笑い声がこぼれた。

半分はシュリを気遣ったことだろうけれど。

こういうとき、リーシャは、ここにいる団員たちが家族のように感じられる。

不服そうなシュリの頭を、もう一度イリアがなでた。

「休日に英気を養うのもプロの仕事よ? あんたに、それができるかしら?」

「む……休むことなんか、誰にだってできるだろ。オレは、ひとりだって練習するからな!」

「ダメよ。私と一緒に来なさい。休日のなんたるかを教えてあげるわ!」

客席で舞台を見ていたアバン劇団長が、ゴホン! と咳払いをした。

「大見得を切ったところ悪いが……イリア君、練習のあと、取材があると言っておいたはずだな?」

「どうもー!! おひさしぶりです! クロスベル通信のグレイス・リンです!」

エメラルド色の瞳を輝かせて記者の女性が入ってきた。

その横で、カメラマンの青年が、パシャパシャとシャッターを切る。

グレイスがマイクを向けた。

「イリアさん、練習を終えての手応えを、ひと言!」

「ふふ、創立記念祭の公演を経て、私を含めた団員たち全員が成長しているのを感じるわ。次は前回より素晴らしい舞台を披露できそうよ」

「わーお！　もしかして、もう具体的なアイディアが、おありなんですか!？」

ねざらいや挨拶ではなく、演劇の話から始めるあたり、イリアの性格を知っている。さすが地元の記者だ。

「アイディアね……話すと長くなるかしら。ねえ、リーシャ」
「はい?」

「シュリと遊んできてくれる?　劇団長、すこし小遣いを渡しておいてよ。どうせ、ほとんど手持ちがないに決まってるんだから」

「やれやれ、イリア君にはかなわないな」

リーシャはあわてて両手を振る。

「そんな！　ミラなんて……」

「オレは、休みなんかいらなくて、イリアさん!」

シュリの反論に、イリアが顔をしかめた。

「あんたね、今さら照明や音響のスタッフに、やっぱり休みなしって言う気?　恨まれるわよ?」

「うっ……」

すでに大半のスタッフは引き上げていた。

呼び戻すことさえ難しいだろう。

「リズムもなしでは練習にならないでしょ?　明日、居残りで見えあげるから、今日は休みなさい」

「わ、わかったよ……そのかわり、明日！　絶対だからな!」

「あんたこそ、早々にへばるんじゃないわよ?」

ヒラヒラと手を振ると、イリアは記者たちのほうへ向かっていった。

グレイス記者が、もみ手しながら待っている。

「うふふん♪　イリアさんのアイディアって、もしかして、そこの若手の子と関係があります?」

「おつ、鋭いわね。でも、それはナイショ」

リーシャは、劇団長から「まあ、イリア君から押しつけられたと思って受け取ってくれ」とお小遣いを渡された。

シュリと一緒に着替えをして、劇場を出る。

ひとまず、中央広場に来てみたものの、なにをしていいやらわからなかった。

シュリが首をかしげる。

「リーシャ姉、どうする?」

「どうしようか?」

「いつも、休日はどうしてんの？」

「え……」

《銀》として依頼を遂行するか、なまならないように訓練をしているか——などと言えるわけがなかった。

黙ってしまふ。

シュリが肩をすくめた。

「なんだ、リーシャ姉もオレと同じか」

「ええっ!？」

（ま、まさか、シュリちゃんまで裏社会の……刺客!？）

「休みの日なんて、寝てるよな」

リーシャは胸をなでおろす。

「はあ、そ、そうよね。でも、お小遣いをもらっちゃったから、家で寝てるってわけには……」

「そんなこと言われてもな。オレ、服と食事以外にミラの使い道なんか知らねえよ」

「たしかに、防具と回復薬くらいよね。セピスのほうがクオーツに合成できるぶん使え——」

「はあ？」

シュリに怪訝な顔をされてしまった。

あわてて、リーシャは口元を押さえる。

気が緩んでいたらしい。

「あ、いえ……ちょ、ちよっとした冗談なの。面白かったでしょう？ 笑ってもいいのよ？」

「リーシャ姉って、ルックスも演技もすごいけど、ジョークのセンスはイマイチだよな」

「ううう……すみません」

クロスベルに来るまで、冗談どころか雑談もろくにしていなかったのだから無理を言わないで欲しい、と思う。

そのとき、見知った顔が歩いているのを見つけた。

「あ、ロイドさん！」



ロイドたち四人はウルスラ病院から戻ってきて、鉾山町マインツに向かう途中だった。

中央広場で声をかけられる。

「あ、ロイドさん！」

呼ばれたほうを見ると、黒に近い紫色の髪の少女と、まるで少年みたいな格好をした女の子が、こちらに歩いてきていた。

「やあ、リーシャに、シュリじゃないか」

リーシャが丁寧におじぎして、シュリがぶっきらぼうに片手を挙げる。

「こんにちは、みなさん」

「ちわ」

エリイとティオが挨拶を返した。

「こんにちは」

「……どうもです」

ランディが驚愕に目を見開く。

「なんてこった！ 今日についてるぜ！ こんなところで、アルカンシエルのスター、リーシャちゃんと会えるなんて!!」

「そ、そんな、大げさですよ」

「リーシャ姉の場合、大げさでもないんじゃないかねえの？ 最近、ファンレターもすごいしな」シュリにまで言われ、リーシャが赤面する。

ロイドも彼女の演技に見惚れたひとりだから、ファンの気持ちはわかるが……これ以上、言ったら、本当に困らせてしまいそうだ。

「今日は、リーシャたち、練習が休みなのか？」

「はい。お休みになったものだから、困ってるんです」

「休みになったから、困る？」

ロイドは首をかしげた。

エリイたちも不思議そうな顔をする。

「どういうことかしら？」

「実は、お休みに慣れてないもので、なにをしたらいいのかわからなくて」

「な、なるほど……」

シュリが唇を尖らせる。

「あんたたち、支援課だろ？ オレたち市民なんだから助けてくれよ」

「う、うーん……休日の使い方か……」

「家で寝てるってのは、ナシだぞ。それ、オレが提案して、リーシャ姉にダメ出しされたからな」

「いくらなんでも、それは提案しないから安心してくれ」

ティオが手を挙げた。

「ん」

「おつ、いい案があるのか、ティオ？」

「ふふ……完璧です。休日といえば、ゲームです。とくに、対戦型の導力ネットゲームは、いくら時間があっても足りないほどです。ポムツと！」といって、まだ開発段階のもの

「なんですが――」

「すみません……それは面白そうですが……私、導力端末を持ってませんから……」

「オレ、難しいのはパスな。眠くなるから」

「がーん」

ティオが膝をついた。

今度は、エリイが前に出る。

「まだまだ導力端末は広まってないものね。だけど、本ならなんにもなくても読めるわ。ここからだ、市立図書館も近くにあるし」

「ん……すみません。できれば、シュリちゃんと楽しめるものがないと思うんです」

「だから、難しいもんはパスだって！ 本なんか表紙をただで眠くなるだろ!!」

「そ、そうよね……」

しゅん、とエリイがうなだれる。

不敵な笑い声をあげたのは、ランディだった。

「この休日マスターの出番が来たようだな！ 休日なら任せろ！ 俺こそが、キング・オブ・休日!!」

「ランディ、お酒とギャンブルと非道德的な場所は勧めないでちょうだいね？」

エリイに釘を刺されると、キング・オブ・休日が、グツと言葉に詰まった。

ティオが眉をしかめる。

「……ランディさん、最低です」

「そ、そ、そんなじゃねえ！ え……つと、そうだ！ 今から俺たちマインツに向かうんだけど、一緒に行くなんてのはどうだ？」

シュリが手厳しく返す。

「はあ!? なにしに行くんだよ？ マインツなんて、山しかないんだろ!？」

しかし、リーシャは興味を示したようだ。

「もしかして、シュリちゃんは、マインツに行ったことないの？」

「ノーザンブリア自治州から流れてきて、やっとクロスベルに着いたんだぜ？ わざわざ街から出ないって」

「大変だったときは、そうでしょうけど……今は、少しくらい遠出する余裕があるんじゃない？」

「まあ、昔とは違うけどさ……」

「マインツは鉱山町で、特別な観光地ではないけど、行ったことがないなら、見ておいたほうがいいと思うわ」

「うーん、他に案はないのかよ!？」

シュリに訊かれて、ロイドは頭をかいた。

「いや、考えてみたら、実は俺も休日にはトレーニングとか、釣りくらいなんだよな」

「はあ、つまんねえヤツだな」

「うう……返す言葉もない」

「仕方ねえ、リーシャ姉がいつて言うなら、つきあうか」

「ふふ、ありがとう、シュリちゃん」

リーシャが微笑んだ。

ランディが小さく拳を握る。

「おし！ 乾いた仕事に、潤いが！ 可憐な花が！ 道中が楽しくなりそうだぜ」

エリイとティオがジト目になっていた。

「どういう意味かしら？」

「……聞き捨てなりませんね」

「え？ あ、いや……それはだな……」

ランディがあれこれと言いつつ訳す。

ロイドはリーシャたちと顔を見合わせ、苦笑していた。

マインツに向かうため、西通りを通って住宅街のほうへ向かう。
途中、リーシャが尋ねてきた。

「誘っていたいたので一緒に来ちゃいましたけど、よかったんですか？ お仕事の最中だったんじゃない？」

「支援要請を受けてるけど、べつにマインツまで一緒に行くだけなら、大丈夫だよ」

「ふふ、よかった」

「リーシャこそ、本当にマインツでよかったのか？」

「はい……街だけにいると忘れそうになるものを、いろいろ思い出させてくれますから」

「なるほど。そういう感性がアーティストには大切なかもしれない。さすがだな、リーシャは」

「そ、そんなことは……」

また彼女が照れて困ったような笑みを浮かべる。

シュリが割り込んできた。

「こらっ、リーシャ姉にベタベタすんなよ」

「いや、ベタベタしてるつもりはないんだけど……」

「シュリちゃんってば……実は、ロイドさんと仲良くしたかったの？」

「はあっ!? どうしてそうなるんだよ、リーシャ姉!？」

「えっ、違うの？」

「オレが、こいつと仲良くしたいわけないだろ！」

シュリが睨みつけてくる。

「ははは……まいったな……」

最初に出会ったとき、いろいろあったせいで、ちょっと苦手に思われてしまっているよ
うだ。

ロイドとしては不可抗力だと思っているのだが。

「そもそも、あんたら、マインツなんか、なんの用事なんだよ？」

少し長くなるけど——と前置きして、ロイドは受けている支援要請について話すことに
した。

「——鉱山町で働いてる人は大勢いるんだが、みんな忙しいせいか、健康診断を受けに
来ないらしくてね」

「へー休みもなく働いてるのか……大変だな……」

「ああ……」

人によつては、酒盛りや夜遊びに忙しいこともあるようだが。

「そのため、定期的にウルスラ病院から医師が健康診断に行ってるらしいんだ。大勢が病
院に来るより効率的だからね」

「そういや、オレはまだ受けてないけど、劇団でも健康診断があるんだよな」

「入団したときに説明があつたわね」

リーシャがうなずいた。

そりゃ、当然だな——とランディが言う。

「イリア・プラティエやリーシャちゃんが健康診断に来たら、ファンが集まっちゃって大
変なことになるぜ」

エリイが苦笑して、ティオが肩をすくめて嘆息した。

「そうね。想像できてしまうだけに、怖いものがあるわ」

「……健康診断どころではなくなるかと」

人気者になるのも大変だが、人気者というのも大変らしい。

シュリが興味なさそうにしつつも続きをうながす。

「んで、その健康診断がどうかしたのか？ あんたたちが、やるとか？」

「俺たちは警察官であつて医者じゃないから無理だよ。実は、ウルスラ病院から出た医師
と看護師が、まだマインツに到着してないらしくてね」

「どこかで寄り道でもしてんのか？」

「そうかもしれない。なにが理由があるんだと思う……意外と、すこし遅れただけで、も
う到着しているかもしれないけどね。俺たちはウルスラ病院で頼まれたから、様子を見に

行くことにしたんだ」

ランディが、ロイドの肩に手を置く。

「なんせ、同行した看護師つてのが、ロイドの姉のセシルさんだしな！」

ティオが補足する。

「……そして、担当医はヨアヒム先生です。あれこれ理由をこじつけて、釣りをしているのかもしれない」

今回の健康診断を担当する医師はヨアヒム・ギンターといい、腕は確かなのだが、仕事を抜け出して釣りに興じるという悪癖があった。

リーシャが不安そうな表情を浮かべた。

「連絡がつかない看護師つて、セシルさんなんですか……」

「うん……そういや、リーシャはセシル姉と会ったことがあるんだな」

「はい。イリアさんの幼馴染みとして、創立記念祭の初日に、紹介してもらいました」
シュリが思案顔をする。

「そういや、オレも挨拶くらいはしたな……優しそうな人だよな」

警戒心の強いシュリが、初対面の相手を褒めるなんて珍しい。それだけ、セシルの人柄が温かいということか。

「ん？ な、なんだよ？ オレ、変なことは言ってねえぞ？」

「うん。セシル姉は優しい女性だよ」

ロイドはうれしくて笑顔をこぼしていた。

マインツ山道に出たところで、バス停が見えてくる。

リーシャは誰にも聞こえないほど小さな声で「なんだか、嫌な予感がする……」とつぶやいた。





月刊 FALCOM MAGAZINE Vol. 178

発行人 田中一寿

発行協力 日本ファルコム株式会社

編集 小淵智幸
河野崇

デザイン・DTP 株式会社 ACQUA

表紙ロゴデザイン 荻窪裕司（デザインクローパー）

発行 株式会社フィールドワイ
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台3-1-9 日光ビル3F
TEL 03-5282-2211（代表）
<http://www.field-y.co.jp/>

Copyright ©Nihon Falcom Corporation.All rights reserved.
©2025 FIELD-Y
©SHINKI KITSUTSUKI 2025
©DAISUKE ARAKUBO 2025



FALCOM MAGAZINE SPECIAL

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

プレゼント!!



3名様

『も〜っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント! ※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ <http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/>

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、(falmaga@field-y.co.jp) まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.178プレゼント係

- 1：お名前（ペンネーム可）
- 2：面白かった記事の番号→
つまらなかった記事の番号→（記事一覧から1つずつ）
- 3：アンケート①PS5版『イースX -Proud NORDICS-』発表の感想は？
アンケート②『空の軌跡 the 1st』の続編があれば期待したいことは？
- 4：希望するプレゼント番号
- 5：ご意見・ご感想など



記事一覧

- 1:『イースX -Proud NORDICS-』特集
- 2:も〜っと集まれ！ファルコム学園
- 3:ファルコムニュース
- 4:英雄伝説 空の軌跡
- 5:啄木鳥しんきのファルコム日和
- 6:英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

応募締め切り **12月24日(水)**

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。